

# 多民族社会の演劇の発見!

オーストラリアは多民族・多文化社会です。演劇も多様です。1960年代以降、孤立する南半球でどのように現代劇が生まれたか、なかでも先住民アボリジニの人々の演劇がなぜ世界的に注目されているのか。オーストラリアを代表する3人の演劇人を招聘し、人間の社会的価値観が根底的に問い直しを必要とされている今、原点から演劇を考えようというのが今回の特集のテーマです。



**Aubrey Mellor** オープリー・メロー

1947年生まれ。演出家、演劇教師。オーストラリア現代演劇を牽引し、古典と外国劇または現代劇と前衛劇を中心とした4つの重要な劇団で芸術監督を務め、劇作家達との新しい作品作りに貢献する。またオペラや映画の演出/監督、多数の国際芸術祭参加作品のプロデュース、そして受賞経験のある多くの俳優、演出家、デザイナー達の指導を行ってきた。シドニーの国立演劇学校(NIDA)の校長を経て、現在はシンガポールのラサール芸術大学の舞台芸術科の学部長。アジア演劇を学んだ最初のオーストラリア人として、ヨーロッパとアジアの技法の両方を取り入れた独自の訓練法を確立させる。国際間・異文化間の共同制作に尽力している。



**Andrew Bovell** アンドリュー・ボヴェル

1962年生まれ。国際的に評価されている劇作家、映画・テレビ・ラジオ脚本家。代表作「スピーキング・イン・タンクス」は欧米で上演され、また映画化もされた(「ランタナ」)。「この雨ふりやむとき」も欧米で高い評価を得、国内でも多くの賞を獲得。『ホーリー・デイ〜聖なる日』はヴィクトリア州首相文学賞、クイーンズランド州首相文学賞などを受賞。最新の戯曲は、ケイト・グレンヴィルの小説を翻案した「秘密の河」。最新の映画作品は、ジョン・ル・カレの小説が原作の『誰も狙われた男』で、7月に世界公開される予定。「スピーキング・イン・タンクス〜異言」、「この雨ふりやむとき」は日本でも上演された。



**Wesley Enoch** ウェズリー・イノック

1969年生まれ。クイーンズランド州・ストラドブローク島で白人の母親とアボリジニの父親の間に生まれる。代表的なアボリジニの劇作家、演出家であり、2010年からはクイーンズランド・シアター・カンパニーの芸術監督。2008年度の太平洋芸術祭ではオーストラリア代表の芸術監督。1994年より先住民劇団クワンバ・ジャダラおよびイルビジュリの芸術監督。2000~2001年はシドニー・シアター・カンパニーの座付き演出家。戯曲は「嘆きの七段階」、「ブラック・メディア」、「クッキー・テーブル」(日本初演、ホワイトバトリック賞)など。最新の演出作品は「肝っ玉お母とその子供たち」。

## 国際演劇交流セミナー2014 オーストラリア特集

in 東京 7月15日(火)~17日(木)・22日(火)  
会場: 芸能花伝舎

in 松山 7月18日(金)~21日(月・祝)  
会場: シアターねこ

【主催】文化庁/一般社団法人日本演出者協会 【制作】一般社団法人日本演出者協会 【通訳】高瀬一樹、三輪えり花  
【コーディネーター】須藤鈴 文化庁委託事業「平成26年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

